

# 令和2年度実施施策に係る政策評価書

別紙2

(環境省R2-26)

施策名	目標5-5 自然とのふれあいの推進					
施策の概要	豊かな自然とのふれあいや休養などの国民のニーズに応えるため、持続可能な自然資源の保全を図りつつ、安全で快適な自然とのふれあいの場の提供やふれあい活動をサポートする人材の育成を行う。					
達成すべき目標	安全で快適な自然とのふれあいの場を提供しつつ、ふれあい活動をサポートする人材を育成することで、エコツーリズムを推進し、自然とのふれあいの質の向上を図る。また、貴重な自然資源である温泉の保護と適正な利用を図る。					
施策の予算額・執行額等	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況(百万円)	当初予算(a)	9,006	11,629	10,404	8,346
	補正予算(b)	9,713	7,715	9,152	-	
	繰越し等(c)	▲5,414	▲858	(※記入は任意)		
	合計(a+b+c)	13,305	18,486	(※記入は任意)		
執行額(百万円)	11,867	13,718	(※記入は任意)			
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	生物多様性国家戦略2012-2020 観光ビジョン実現プログラム2019					

測定指標	自然公園の年間利用者数の推移(暦年 千人)	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	年度	
		-	895,010	909,082	905,138	893,110	-	-	-
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-		
	エコツーリズム推進法に基づく全体構想認定数(括弧内は累計)	基準値	実績値					目標値	達成
		H20年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R10年度	
		0	5(12)	0(12)	3(15)	2(17)	1(18)	(47)	-
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-		
	国立公園・国民公園年間利用者数の推移(千人)	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	年度	
		-	359,160	367,470	371,508	369,150	-	前年度比1%増	×
	年度ごとの目標値		365,236	362,752	371,145	375,223	372,842		
	温泉の自噴湧出量(L/分)	基準値	実績値					目標値	達成
		S45年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	年度	
		651,265	684,096	679,732	676,267	667,549	-	前年度の水準を維持	△
	年度ごとの目標値		686,000	684,000	679,000	676,000	667,000		
	国立公園における自然再生事業推進のための実施計画数	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R2年度	
		-	16	17	18	19	20	16	○
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-		
国指定鳥獣保護区における保全事業実施計画数	基準値	実績値					目標値	達成	
	年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度		
	-	11	12	12	12	12	12	-	
年度ごとの目標値		-	-	-	-	-			
国立公園訪日外国人利用者数	基準値	実績値					目標値	達成	
	年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R7年度		
	-	564万人	600万人	694万人	667万人	93万人	667万人	-	
年度ごとの目標値		-	-	-	-	設定不能			

評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分) 相当程度進展あり  (判断根拠) 測定指標のうち、国立公園・国民公園の利用者数については、令和2年度は集計中であるが、令和元年度は前年度に比べやや減少したが、おおむね水準を維持している。エコツーリズム推進法に基づく全体構想については、令和2年度は新たに1件の認定を行った。また、訪日外国人国立公園利用者数については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け大幅に減少したが、段階的な回復期に向けて必要となる受入環境整備は着実に進んでいる。測定指標のうち、温泉の自噴湧出量については、令和2年度は集計中だが、令和元年度はおおむね前年度の水準を維持している。
	施策の分析	<安全で快適な自然とのふれあいの場の提供・人材育成> ・自然公園等の利用者数の推移は、横ばいないし増加が見られており、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け大幅に減少したものの、ワーケーション等の取組を含めて今後の回復を見込んでおり、目標に向けた施策の方向性は妥当である。一方で、ポスト・コロナを見据えて、今から準備を進めておく必要がある。 ・エコツーリズム推進全体構想の認定は、着実に認定数を積み上げるとともに、新たな認定に向けた調整も進んでおり、施策の方向性は妥当であると考えられる、今後更なる取組の推進が必要である。
	次期目標等への反映の方向性	【施策】 <安全で快適な自然とのふれあいの場の提供・人材育成> ・ポスト2020国際枠組み等の構築を見据え、生物多様性の主流化に向け、自然とのふれあいが更に重要になると考えられることから、引き続き目標を推進する。 【測定指標】 <エコツーリズム推進法の規定に基づく全体構想の認定数> ・エコツーリズム推進全体構想について、令和10年度に全体構想認定数が1以上ある都道府県数が47になることを目標として、毎年2～3件認定することを次年度以降の目標とした。

学識経験を有する者の知見の活用	国立公園満喫プロジェクト有識者会議において、国立公園の利用者数や取組内容について報告するとともに、出された意見を施策に反映している。
-----------------	--

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	自然公園等利用者数調
---------------------------	------------

担当部局名	自然環境局 国立公園課 国立公園利用推進室 自然環境整備課	作成責任者名	熊倉基之(国立公園課長) 岡野隆宏(国立公園利用推進室長) 佐藤邦雄(自然環境整備課長)	政策評価実施時期	令和3年8月
-------	--	--------	--	----------	--------